

スローガン

Shinka³

深化 × 進化 × 真価

「明星園のなかで、福祉人としての役割を深化・進化させ、真価を問う」

活動方針

- 1) リニューアル及び新規オープン事業を軌道に乗せ、更に新たな事業にチャレンジする。(進化)
- 2) 既存事業の経営を安定化させ、これまでの実践に磨きをかけ、更なる発展(事業継続・人材育成・サービスの質の向上)について模索する。(深化・進化)
- 3) 経営理念や運営理念を見直し、全職員が一丸となり事業を前進させていくための羅針盤を築く。(深化)
- 4) 引き続き、地域における公益的な取組を前進させ、各地域における明星園の役割を浸透させる。(真価)

具体的取組み

I 中長期計画に基づく具体的取組み

1. リニューアルした菟道特養及び地域包括支援センター事業を軌道に乗せる
2. 小規模多機能新築事業を成功させる
3. 事業年度末に終了する2箇所のグループホームの契約について検討し、これまでの認知症ケア実践をさらに深められるような緒策について模索する
4. 経営理念、運営理念の刷新を図る
5. ソーシャルワーカー人材(コミュニティワーク、事業所内調整、地域との調整、家族との調整他機関との調整等)を育成するための研修(OJT・OFF-JT)について検討する
6. 多額の借入金を有する事業所(養護老人ホーム・小規模特養)の経営の安定化を図るための後方支援を行なう(稼働率確保のための技術的支援や法人全体を見据えたプラスαの人材確保・育成に係る費用の支弁等)
7. 広報及び採用にかかる本部機能の強化(継続課題)
8. lot や介護ロボット等の活用による生産性の向上

- 令和2年4月にリニューアルした菟道特養については、法人本部が積極的に指導(稼働率確保、費用削減、人材確保等)することで、オープニングに起こり易い事態として懸念されていた職員の離職や稼働率の低迷は免れた。宇治市からの単費補助金の申請等を通じて資金面についても支援し、一定の資金収支差額を残すことができた。南部・三室戸地域包括支援センターについては、4月に無事産声をあげることができたが、年度の中盤から人員態勢がぶれはじめ、年度末に退職者が出るなど実務面において悪戦苦闘した。しかし、次年度の顔ぶれも落ち着かせることができ、次年度に向けて何とかつなぐことができた。法人本部としては理事がサポーター役となり、職員のフォロー等を行った。
- 小規模多機能新築事業については、6月15日に入札を執行し、入札不調に陥ることなく請負業者の選定をすることができた。4日後の19日に早速第1回の定例会議を実施し、7月1日から順調に工事に入ることができた。結果として、約一か月前倒しで引き渡しを受けることができ、コロナ禍のなかではあったが、2月21日に宇治市長をお招きし、竣工式を挙行することができた。
- グループホーム2箇所の契約更新については、それぞれ家主さん、地主さんと折衝し、ナイスライフいせだは建物の賃貸借契約を、なごみの里伊勢田は土地の賃貸借契約(それぞれ10年)を結ぶことができた。
- 経営理念の刷新等は、コロナ禍で管理職同士のコミュニケーションの場が持てなかったため議論できなかった。Webによるオンライン会議も検討したが、職員のITリテラシーが低かったため、開催にこぎつけることができなかった。次年度は、ミーティングアプリの利用料の支払い(カード決済)をどのようにするかといった課題はあるが、全体的にITリテラシーを高め、たとえコロナ禍の状況が続いたとしてもオンラインでコミュニケーションが取れるよう環境整備を図っていきたい。
- ソーシャルワーカー人材の育成については、コロナ禍でOFF-JT等が麻痺状態となってしまったため前進していない。一年を通じて菟道及び白川特養で生活相談員の確保が喫緊の課題であったことを踏まえ、次年度は、まずソーシャルワーカー人材の処遇改善も含め検討し、育成のための土台作り(人材の確保)を進めていきたい。
- 経営安定化の後方支援については、前述の通り、法人本部がサポーターとして稼働率確保に向けたアドバイス等を実施した。新型コロナの影響もあり収支状況が不安定であった通所事業(白川・小倉)に対しては定員増員の助言等をおこなった。小倉デイについては、次年度から定員増となり、経営安定のための礎を築くことができた。
- 広報及び採用については、明確なシステムは確立されていないが、一年を通じ、人材の集まりやすい事業所から人の集まりにくい事業所への応募者の紹介を行った。下半期には小規模多機能新規事業のメインパーソンを配置し、その者を通じて広報等を実施した。これらの策が功を奏してか、菟道小規模多機能のオープニングスタッフの顔ぶれは整い無事開所することができた。
- lot投資については、上半期に宇治市のタブレット補助金が創設されたため、対象事業所はすべて応募したタブレット等を新調した。また、介護用リフト等を導入した事業所もあり、時代の流れに沿った動きをすることができた。下半期は新型コロナ助成金を活用し、上半期以上にlot環境の整備や感染症対策を進めることができた。
- 総体的に見ると、コロナ禍で厳しい経営を迫られ、通所系事業所は軒並み稼働率を落としてしまったが、入所系等は堅固な経営を実践し前年度比でプラスとなった。
- コロナ罹患者は、8月に入居者1名、1月に職員が1名罹患したが、いずれも発生後の適切な対応、発症前の情報収集によりクラスターになることはなく、収束させることができた。

II 地域における公益的な取組み

1. 各事業所・拠点において実施している、地域における公益的な取組みを展開、充実させ、社会福祉法人としての役割を社会に向けて発信する。
(以下、実施事業)

取組拠点（事業所）	取組内容
白川明星園 ケアハウスあさぎり 白川介護サービスセンター 伊勢田明星園グループホーム	平安ロマン号 サロン白川との交流・合同事業 神明カフェ なごみカフェ/認知症相談窓口の開設 伊勢田保育園年長組との合同散歩 認知症相談窓口の開設/認知症キッズサポーター養成講座
菟道明星園 小倉明星園 伊勢田明星園 明星っ子こども園	三室戸小学校児童絵画展/明星地藏盆 うたごえサロン/認知症キッズサポーター養成講座 ボランティアルーム開放事業 園庭開放（遊びの広場）/クリスマス会/ピアノの会 卒園児同窓会に伴う施設開放支援

2. 各事業所の地域における取組を積極的にPRしていく(社会の公器としての役割の明示)
3. 法人全体の取組として実践研究(交流)発表会を開催する

- ・ 地域における公益的な取組みについては各事業所の事業報告に委ねる。コロナ禍によりほとんどの事業所の取組みが凍結してしまった。
- ・ PR 戦略については、上半期はホームページ事業者と折衝を重ね、ホスティングサービスの機能強化及びページ構成のリニューアル等を検討した。小規模多機能の新築にあたり、追加ページを作成し、併せてメインのホームページもバージョンアップすることができた。(ホスティングサービスも更新)事業所によっては Facebook を通じて積極的に情報発信をすることができた。(明星っ子こども園、伊勢田明星園)
- ・ 理事会で検討もされたが、コロナ禍のため実践研究(交流)発表会については暗礁に乗り上げてしまった。

III ガバナンスの強化に向けた取組み

1. 働き方改革への柔軟な対応を図る
2. 法人本部による各事業所の法令遵守状況のチェック機能の強化を図る(児童福祉、介護保険、老人福祉法等諸法令、通知等に基づく事業の実施状況のチェック)
3. 本部経費の強化について検討する(継続課題)
 - i 本部経費の弾力的運用の検討(本部人件費、人材確保、広報、HP 経費の確保等)
 - ii 経営状況が厳しい事業所への貸付の検討
4. 情報の開示の視点から令和1年度版「一年のあゆみ」を発行する。(8月末までに発刊)
5. 業務執行状況をモニタリングできるよう常務会等を稼働させ現場レベルでの相互牽制機能を高めていく。(継続課題)
6. 世の中の動きに機動に対応できる(資金調達、資産、人事労務管理等)組織態勢をつくる。(管理職会議、常務会、理事会の開催等)(継続課題)

- ・ 働き方改革への対応として、上半期に年休取得調査及び離職者の調査等を実施した。また、労働施策総合推進法改正に伴う対応としてパワハラ規制に係る文言を就業規則に入れる等の措置を採った。
- ・ 法人本部の牽制体制として上半期は自主点検表や情報の公表等に基づくチェックを実施した。しかし、上半期に内部告発による緊急実地指導が入る等牽制体制を揺るがす事態（菟道居宅）が生じたため、その対応に追われた。結果として多額の報酬返還をすることになってしまった。（法令違反ではなく、自主返還）これらの事案があり下半期は、本部が主導し、現場レベルで介護報酬請求状況の点検を実施した。併せて、第三者の目を入れるという意味合いで、第三者評価の追加受診等の指導を行った。
- ・ 本部経費の弾力化については継続課題である。上半期は、新型コロナ関係補助金の申請等に追われ、下半期も追加補助金の申請等を本部が取りまとめた。処遇改善も含めると本部がいわば代行申請のようなかたちになっているのは否めない。新規事業については、本部がけん引するかたちで、資金注入や貸付を実施した。
- ・ 1年のあゆみについては2月の竣工式に合わせて校正し無事発刊することができた。
- ・ 3月にはじめてオンラインで人権学習会を開催した。
- ・ 常務会は計4回開催した。また、新型コロナ蔓延を受け4月に明星園グループ感染症対策会議を開催。8月に新型コロナ罹患者が発生したことに伴い、緊急明星園グループ感染症対策会議を開催し、2月にも罹患者が発生したため急遽、開催した。
- ・ コロナ禍のため管理職会議については開催できていない。理事会については年4回開催した。